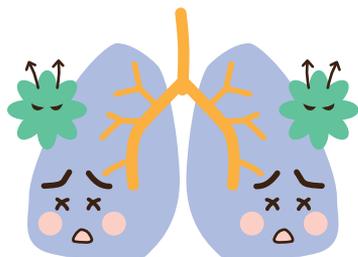


肺炎球菌とワクチンについて

肺炎球菌って何？

肺炎球菌は人の鼻腔内に常に存在する細菌です。健康な人では特に問題ありませんが、子供や高齢者、免疫機能が低下している人では重い感染症を起こす場合があります。



肺炎球菌による感染症に対する治療は？

肺炎球菌はまわりを固い膜で覆われた細菌で、通常、体を細菌から守るために働く白血球が攻撃しにくい構造をしています。

治療には抗菌薬が使われますが、治療効果のある抗菌薬を使用することが重要です。



予防接種はできますか？

日本では下に挙げた人を対象として、23種の血清型に対応した肺炎球菌ワクチンが認可されています。

- ・65歳以上の高齢者
- ・心臓・呼吸器の慢性疾患、腎不全、肝機能障害、糖尿病などの基礎疾患がある人
- ・脾臓の機能不全がある人

さらに、2010年2月からは、2歳未満の乳幼児についても、7種の血清型に対応した肺炎球菌ワクチンが接種できるようになりました。（注：当院では乳幼児を対象とした肺炎球菌ワクチンの予防接種は受け付けておりません。）

肺炎球菌ワクチンの接種については、ほかのワクチンとの接種間隔も含めて、かかりつけの医師とよく相談のうえで決めるようにしてください。また、希望してもすぐに接種できないことがありますので、希望される場合は早めに医療機関へ相談してください。

当院でも成人を対象とした予防接種を受け付けております。希望される方は医師にご相談ください。

-おくすりの話 vol.06-

薬剤部 小野 絢子



どんな病気を起こしますか？

肺炎球菌はその名の通り、肺炎の原因になる菌です。一般家庭で暮らす成人が発症する肺炎（市中肺炎と呼ばれています）の原因として最も多く報告されています。しかし、それだけではありません。

小児や高齢者、免疫機能低下者は肺炎球菌に対する抵抗力を持っていないので、比較的簡単に肺炎球菌に感染してしまいます。肺炎球菌が肺に感染すると

「肺炎」に、血液の中に入り込むと「敗血症」に、脳や脊髄を覆っている髄膜の中に入り込むと「髄膜炎」を発症します。敗血症や髄膜炎を起こすと、重篤な後遺症を残したり、命にかかわったりすることがあります。

インフルエンザの後は肺炎球菌に感染しやすいのですか？

インフルエンザに感染すると細菌性の市中肺炎にかかりやすくなります。インフルエンザによって肺はかなりのダメージを受けて、もろくなっています。そこに病原体が入り込むと、簡単に感染して肺炎を起こしてしまいます。この時の病原体は肺炎球菌が最も多いと言われています。

また、インフルエンザ後に発症した肺炎は、通常の肺炎よりも治療が難しいのです。様々な合併症を起こしやすくなり、また肺の大部分で肺炎を起こすこともあります。そして、治療効果のある抗菌薬が治療に使用されても死亡率が高いのです。インフルエンザ後の肺炎球菌による肺炎の予後は「インフルエンザウイルスの病原性」「肺炎球菌の病原性」

「感染した人の免疫力」に左右されるので、もう一工夫しなければなりません。その一つが肺炎球菌ワクチンの接種です。

